



## 国際医療リスクマネジメント学会 世界健康リスクマネジメントセンター

### 主催者の挨拶

## 医療機関のための災害安全対策 2013

### — 大災害と感染症に対する医療機関インフラのあり方 —

大災害の際に住民の寄り所は医療機関です。東日本震災でも多数の住民が医療機関に助けを求めてきました。しかしながら、被災地における医療機関の災害に対するインフラ整備はからなずしも十分ではありませんでした。また、多数の医療機関自体が全損・消滅しました。

日本は全土を火山帯に覆われ、かつ大陸プレートの端に位置するために、世界一の地震多発国といわれています。また、東日本大震災の被害の大きさは、日本の多数の地震研究者達の予想をはるかに超える大規模でした。したがって、大災害時に対しては災害拠点病院のみならず多数の医療機関が緊急対応に迫られ、また大災害に対して一般の医療機関自体が十分な備えをしておく必要があります。

今年度の本教育プログラムでは、大災害に際して医療機関のとるべきインフラ整備をどうしておくべきかを、東日本大震災などの被災地の事例も踏まえて学習します。

また、致死率の高い強毒性の新型インフルエンザ患者が世界各地で報告されるに至りました。それに対して日本政府では新たな対策も策定されるに至っております。日本の医療機関がとるべき事前のリスクマネジメントについて、日本を代表する方々によってシンポジウムを開催いただけることになりました。

なお、本シンポジウムについては、前日に東京大学医学部で開催される第12回日本予防医学リスクマネジメント学会学術総会の企画でもありますが、今回の方式によって非学会員の方にも広く参加いただけます。

以上、本教育プログラムは、大災害および高致死率の新型インフルエンザに対して、あなたの医療機関が構築すべき危機管理システムに、多くの貴重な助言を与えるものです。

2013年11月

国際医療リスクマネジメント学会 会長・理事長  
日本予防医学リスクマネジメント学会理事長  
第12回日本予防医学リスクマネジメント学会学術総会総会長  
酒井 亮二

主催者一同